

特定非営利活動法人 ワネッツ

# 活動報告書

第 8 期

(2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日)

2025 年 5 月 24 日

# 強制余白

## 1. 活動の目的

### 1-1. 決意

特定非営利活動法人ワネッツ（以下「ワネッツ」という。）は、以下の決意のもと 2017 年 4 月 6 日に設立した。

その後、2022 年 12 月、ワネッツは NPO 法に定める認定 NPO 法人格を取得した。

私達は、嶺南地方を中心に、この地域の人口構成上の中核となる高齢者によって、イノベーション（従来のモデルを改革して社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動）を進めるために、特定非営利活動法人を設立する。

また、この法人が管理運営する「地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR：ニーター）は、緊急時において不公平感のない中立的な組織として、行政のみならず自主防災組織などの住民自主活動も支援する。これは、この地域の災害の復元力（レジリエンス）の向上にも大きく寄与するものであると信ずる。

さらに私達は、この法人に組織管理手法（マネジメントシステム）を取り入れ、常に継続的改善、自己改革ができる組織をつくり、「原子力発電所がある地域は元気な地域」と呼ばれるようになることを目指し、この実現のため「終わりなき挑戦」をする覚悟である。

### 1-2. 目的

この決意のもと、ワネッツの定款において法人の目的を設定した。

この法人は、地域住民、地方公共団体および原子力事業者等に対して、原子力緊急時における防護対策および災害応急対策ならびにこれらの準備に関する支援等を行い、地域の防災・減災力の向上に寄与することを目的とする。

この定款の目的を、2019 年 9 月、以下のように改定した。

この法人は、地域住民および関連組織との間で原子力緊急時に関するリスクコミュニケーションを実施することで、地域に備える防災力の向上ならびに緊急時となった場合の減災力の向上に寄与することを目的とする。

さらに目的について、2024 年 10 月、以下のように改定した。

この法人は、この法人は、地域住民および関連組織などのステークホルダーとの間で原子力緊急時に関するリスクコミュニケーションを実施することで、地域に備える防災力の向上ならびに緊急時となった場合の減災力の向上に寄与することを目的とする。

### 1-3. 事業

この目的を達成するため、特定非営利活動促進法で定める災害救援活動および地域安全活動の領域で、以下の 5 つの非営利事業を実施することとした。

- ① 地域住民のための原子力緊急時援助隊運営事業（以下、「NEATR 運営事業」という。）
- ② 地域住民のための原子力緊急時援助隊隊員等研修事業（以下、「NEATR 隊員等研修事業」という。）
- ③ 緊急時ツール開発管理事業
- ④ 原子力および放射線緊急時知識普及事業
- ⑤ 関連付随事業

（注 NEATR は「地域住民のための原子力緊急時援助隊」“Nuclear Emergency Assistant Team for Residents”の略であり、「ニータ」とよむ。この NEATR はワネッツ設立に先立ち、

2016年12月17日に創設した任意のボランティア組織で、若狭地方の原子力職場を経験（物品納入や役務提供等を含む）したシニアで構成しており、ワネッツの財政的裏付けのある計画に基づき現地での地域住民の対応を行う。

## 2. 2024年度の活動の成果

### 2-1 特定非営利活動事業における成果

ワネッツの2024年度（第8期）の活動については、第9回通常総会（2024年5月11日、京都市八ヤト瑞宝閣）の議決を踏まえ、福井県原子力防災訓練でのコマンドシステム演習、公益社団法人原子力安全研究協会（以下、「原安協」という）との連携、アウトリーチワークショップの拡大などの活動方針を全会一致で可決し、これをうけて、2024年度は、以下の項目を重点的に実施した。なお、詳細は添付の活動報告書添付資料に記す。

- ・ 令和6年度福井県原子力防災訓練（2024年10月25日（金）、26日（土））に参加し、福井県から要請を受けた避難所でのブース展示等を行った。この活動は参加された訓練避難された皆様から高評価をいただいた。また、併せて実施した訓練屋内退避で参加されている地域住民の7人の方に不安事項をお持ちかなどの訪問聞き取り調査を行い、世界標準であるシェルター・イン・プレース（SIP）の普及に向けた実態調査を行った。
- ・ 同じく、福井県原子力防災訓練時の佐分利公民館において、福井県外国人コミュニティリーダーとともに、おおい町在留外国人（10人）を対象とした「リスクコミュニケーションゲーム」を実施した。この活動は、主催されたおおい町の皆様から「よかった」「すごかった」等、たいへんな好評をいただき、かつ、「笑顔」という態度がリスクコミュニケーションの基本技能になり得るという貴重な教訓を得られたものとなった。
- ・ 2022年度に福井県下約100か所に備え付けられた放射線測定器を使えるものにしようという発想で、「アウトリーチワークショップ事業」を開始し、以降、行政機関、警察・消防など実働機関、病院・福祉施設に「一緒にやりましょう」と提案してきた。その結果、福井県警察本部とは2024年5月27日（月）、おおい町とは2024年9月30日（月）におおい町役場にて合同ワークショップを実施することができた。
- ・ 東電福島事故の教訓を活かすため、ほぼ毎年度行ってきた「311特別企画事業」について2024年度は3月8日（金）に、「311特別セミナー これからの原子力防災 屋内退避を考える」として、100名の方にお集まりいただき敦賀市あいあいプラザで実施した。これは、福井県および嶺南市町のセミナー後援を受けて、避難一辺倒である原子力緊急時対応に国際的な潮流であるシェルター・イン・プレースを導入しようという画期的な試みであり、今回のセミナーを継続し、福井県で「屋内退避」を定着させる方向性が確立された。

### 2-2. その他事業（収益事業）における成果

収益事業は実施していない。

### 2-3 運営における成果

2022年9月に、それまで得ていた特例認定NPO法人格を、認定NPO法人格に引き上げるための申請を行い、厳しい書類審査および現地検査を経て、2022年12月13日に、同法人格を福井県知事よりいただいた。これは福井県では5番目、嶺南地区では初の快挙である。この法人格を維持するための主な要件はご寄付頂いた方の数であり、有効期間5年であるため2027年12月までにこの要件を満たしていく必要がある。

ワネッツの運営は、定款に定める事業が成立し、かつ継続的な改善が可能となるよう、以下の活動を実施し、それぞれ、前第2-1項に示した成果に寄与させることができた。

- ・ よりの確な会計処理を行うとともに厳格に執行状況を把握するための月次決算方式の採用
- ・ 社外役員、女性役員の社会的な動きにあわせたワネッツ役員の登用および顧問の委嘱
- ・ 高齢化、隊員数減少を食い止めるための NEATR 隊員の獲得強調月間の設定
- ・ アウトカム（成果目標）を設定した継続的な寄付募集
- ・ NEATR コマンドシステムの導入、定着
- ・ NEATR ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

### 3. 事業の実施に関する事項

#### 3-1 特定非営利活動における事業

前1-3項に基づく事業区分において、ワネッツ役員会においてまず目的を明確にした個別事業を設定し、その後その個別事業の詳細な実施計画をワネッツ役員会（兼 NEATR 戦略本部会議）で承認するというステップで行ってきた。

この個別事業は、各年度 10 件程度を目安に実施してきているが、2024 年度は 8 件の個別事業を設定し、実施してきた。このうち、4 件（アウトリーチワークショップ事業、SIP 普及開発事業、オールハザード対応技術事業および放射線空気の壁打破事業）は継続事業として実施した。

【表-1 個別事業実施件数】

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
個別事業件数	9	9	8	8	8
内継続事業件数	0	0	1	0	3
	2022年度	2023年度	2024年度		
個別事業件数	10	10	8		
内継続事業件数	1	2	4		

なお、2024年度の8件の個別事業（は下表のとおりである。

【表2 2023年度個別事業実績】

区分	事業名	実施日	内部/外部参加者	実施場所/実施内容
①NEATR 運営事業	2023 年度コマンドシステム演習事業	2024年10月25日、26日	26名/約260名	南越中体育館、東陽中体育館、佐分利公民館、高浜町和田地区
②NEATR 隊員等研修事業	2023 年度災害時外国人支援事業	2024年11月24日	8名/20名	おおい町「エルガイヤ」および「うみんぴあ」(役員会)
	アウトリーチワークショップ事業(継続)	2024年5月27日、9月30日他	17名/42名	福井県警本部警察学校、おおい町役場、大飯 OFC
	2024 年度311特別企画事業	2025年3月8日	50名/(100名)	嶺南市町キャラバン、敦賀市あいあいプラザ
③緊急時ツール開発管理事業	SIP 普及技術開発事業(継続)	2025年2月1日、2日	4名/5名	美浜町佐田地区、高浜町和田地区、おおい町成和地区の各公民館
	オールハザード対応技術開発事業(継続)	2024年10月12日	8名/150名	福井県立大学小浜キャンパス体育館(役員会)
④原子力および放射線緊急時知識普及事業	2023 年度若狭湾エネ研受託研修事業	2025年1月14日	8名/5名	若狭湾エネ研(役員会)
	放射線空気の壁打破事業(継続)	2020年6月～	8名/6名	ワネッツ小浜事務所等(役員会)
⑤関連付随事業	実績なし			

#### 2-2 その他事業（収益事業）

収益事業は実施しなかった。

2-3 理事会および総会

(1) 定款に基づく理事会および総会を以下のとおり実施した。

【表-3 ワネッツ理事会、総会実施状況】

区分	年月日	場所・方式	出席	議事状況
理事会	2024年 4月5日	テレワーク方式	出席5名 欠席2名	第9回ワネッツ通常総会、2024年度活動計画について他
通常総会	2024年 5月26日	京都市ハトヤ 瑞鳳閣	出席28名 欠席12名	2023年度活動報告、決算報告について 2024年度活動計画、予算について
理事会	2024年 8月26日	テレワーク方式	出席28名 欠席12名	定款の変更について
臨時総会	2024年 9月8日	テレワーク方式	出席30名 欠席8名	定款の変更について

(2) ワネッツ役員会規定に基づく役員会を以下のとおり実施した。このうち、月例以外の臨時役員会を2回、事業スタッフ等の参加を得て行う拡大役員会を5回実施した。

【表-4 ワネッツ役員会実施状況】

回	年月日	場所・方式	出席	議事状況
2023年度 第12回	2024年 4月5日	テレワーク方式	出席6名 欠席3名	第9回ワネッツ通常総会、2024年度活動計画について他
第1回 (月例)	2024年 5月12日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	理事長の互選について 福井県知事あて報告について 他
第2回 (臨時)	2024年 6月13日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	廃止措置共同研究への応募について
第3回 (月例)	2024年 6月23日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	アウトリーチワークショップの結果 SIP普及開発事業について 他
第4回 (月例)	2024年 7月28日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	定款変更について おい町ワークショップ実施画について 他
第5回 (月例)	2024年 8月26日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	臨時総会の開催について おい町ワークショップについて他
第6回 (臨時拡大)	2024年 9月11日	テレワーク方式	出席6名 欠席0名	2024年度コマンドシステム演習について
第7回 (月例)	2024年 9月22日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	おい町ワークショップについて 2024年度コマンドシステム演習について 他
第8回 (月例拡大)	2024年 10月7日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	リスクコミュニケーションゲームについて 2024年度コマンドシステム演習について 他
第9回 (月例)	2024年 11月10日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	SIP普及活動について オールハザード対応について 他
第10回 (月例)	2024年 12月16日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	311特別セミナーについて 災害時外国人支援について 他
第11回 (月例拡大)	2025年 1月19日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	311特別セミナーについて お困りごとお聞きしますフィードバック 他
第12回 (月例拡大)	2025年 2月9日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	311特別セミナーについて 若狭湾エネ研受託研修について 他
第13回 (月例拡大)	2025年 3月29日	テレワーク方式	出席5名 欠席1名	311特別セミナーについて 屋内退避ワークショップについて 他

(3) 監査については以下のとおり実施した。なお、それぞれの監査報告書は2023年度決算報告書に掲示した。

【表-5 ワネッツ監査実施状況】

回	年月日	場所・方式	出席	議事状況
第1回	2024年 4月5日	テレワーク方式	監事2名 理事1名	2023年度決算監査

## 2-4 運営に関する事項

### (1) 重要な規定の制改定および契約の締結

NPO 法人ワネッツ定款の第 2 条第 2 項の従たる事務所の住所変更、第 3 条の目的にステークホルダーを入れる変更および理事長、副理事長、事務局長を総会で選任することの変更を行い、令和 6 年 10 月 9 日付で福井県知事認証を得た。(3 次改正)

また、第 11 回役員会(2025 年 1 月 19 日)で、NEATR 隊員規約に NEATR リスクコミュニケーション基本技能を追加する等の改正を行った。

- ・ 特定非営利活動法人ワネッツ定款 (最終改定 2024 年 10 月 9 日)
- ・ WANETS 規定第 1 号 NPO 法人ワネッツ役員会規定(最終改定 2024 年 4 月 5 日)
- ・ WANETS 規定第 2 号 NPO 法人ワネッツプライバシーポリシー(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第 3 号 NPO 法人ワネッツ旅費規定(最終改定 2024 年 4 月 5 日)
- ・ WANETS 規定第 4 号 NPO 法人ワネッツ会計規則(最終改定 2024 年 4 月 5 日)
- ・ WANETS 規定第 6 号 NEATR 隊員規約(最終改定 2025 年 1 月 19 日)
- ・ WANETS 規定第 7 号 NPO 法人ワネッツ緊急時対応計画(制定 2020 年 12 月 27 日)
- ・ 株式会社 EPR クリエイト「事務処理委任に関する契約書」(締結 2017 年 4 月 12 日)
- ・ あいおいニッセイ同和損害保険株式会社「NPO 総合活動保険契約(締結 2018 年 8 月 25 日)
- ・ ワネッツシニアアドバイザー「ワネッツシニアアドバイザー契約」(締結 2018 年 6 月 20 日、新ワネッツシニアアドバイザー契約に移行)
- ・ 公益財団法人原子力安全技術センター「原子力防災事業の実施に係る協定」(締結 2018 年 4 月 16 日以降順次)
- ・ 公益財団法人原子力安全研究協会「原子力災害現地対策本部図上演習の実施に関する協定」(締結 2023 年 5 月 10 日)
- ・ 新ワネッツシニアアドバイザー「ワネッツシニアアドバイザー契約」(締結 2023 年 6 月 20 日以降順次)

### (2) ワネッツの正会員および賛助会員の獲得

ワネッツ発足当時より、ダイレクトメール方式で新規の正会員・賛助会員の獲得を行ってきたが、2019 年以降、個人情報の保護の観点から、既存の NEATR 隊員や寄付者への勧誘しかできなくなったため、新規会員獲得数が大幅に減少した。

2024 年度は、社外役員、女性役員の社会的な動きにあわせたワネッツ役員の登用および顧問の委嘱の関係で 2 名の原子力職場経験者外の会員を含む 4 名の会員増となった。一方、ご逝去や高齢を理由にした脱会があり、5 名の会員減となった。

なお、2024 年度末で、2023 年度、2024 年度と 2 年連続で会費未納入が 3 会員ある。

【表-6 ワネッツ会員数】

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
	個人	団体								
正・賛会員数	57	9	67	9	61	9	61	9	55	10
期初めより増	18	9	11	0	0	0	2	0	0	1
期初めより減	3	0	1	0	6	0	2	0	6	0

	第6期		第7期		第8期	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
正・賛会員数	50	9	53	9	50	9
期初めより増	0	0	5	0	4	0
期初めより減	5	1	2	0	7	0

(4) NEATR の隊員の獲得

NEATR 隊員の高齢化に伴い、2023 年度 NEATR 隊員拡大月間を設定し、NEATR 隊員増強月間を設けて嶺南地区に新聞折り込みチラシなどをして隊員募集を行った結果、7 名の方に新規 NEATR 隊員となっていた。

その後、個別面談等により2名の隊員増加となったものの、ご逝去3名を含む任意脱退により7名の隊員減となった。

【表一七 NEATR 隊員数】

	第1期(2017)	第2期(2018)	第3期(2019)	第4期(2020)	第5期(2021)
隊員数	139	133	129	119	117
期初めより増	15	1	3	0	2
期初めより減	14	7	7	10	4

	第6期(2022)	第7期(2023)	第8期(2024)
隊員数	109	109	104
期初めより増	0	7	2
期初めより減	8	7	7

(5) 継続的な寄付収入の確保

ワネッツ設立当初から、寄付により税制面でメリットが得る認定 NPO 法人格取得、維持を目指して、その法人格取得の1つの条件である寄付者3000円以上、100人以上を活動のアウトカム指標として、寄付金獲得活動を実施している。

2024 年度期は、恒例の4月募集に付加してダイレクトメール方式で12月追加募集を実施した結果、アウトカムは達成した。

なお、このご寄付を頂いた方については、公開用名簿を小浜事務所に置き閉架方式で公開している。

【表八 ご寄付を頂いた人数および合計金額】

	第1期(2017)	第2期(2018)	第3期(2019)	第4期(2020)	第5期(2021)
寄付者数(除役員)	120	101	106	101	102
3000円以上	109	101	106	99	101
寄付総額(円)	1,145,517	815,900	797,000	707,000	712,955

	第6期(2022)	第7期(2023)	第8期(2024)
寄付者数(除役員)	101	103	101
3000円以上	101	103	101
寄付総額(円)	715,118	720,000	649,200

現金でのご寄付の他に、物納でもご寄付いただいているが、2020年度以降、実績がない。

なお、この物納でのご寄付を頂いた方についても、公開用名簿を小浜事務所に置き閉架方式で公開している。

【表九 物品寄贈】

	第1期(2017)	第2期(2018)	第3期(2019)	第4期(2020)	第5期(2021)
寄贈者数	0	1	1	1	0
内容	—	未使用はがき	未使用はがき	未使用はがき	—
評価額(円)	0	46,837	868	2,202	0

	第6期(2022)	第7期(2023)	第8期(2024)
寄贈者数	0	0	0
内容	—	—	—
評価額(円)	0	0	0

(6) 補助金等の申請

ワネッツ設立当初から財政面での安定化を目指すため、民間含め各種団体が募集している補助金等の獲得に取り組んでいる。2024 年度は検討したものの申し込みを行わなかった。現時点では、ワネッツ発足以来 10 件申込、2 件成功という状況である

【表 10 補助金申請の変遷】

	第1期(2017)	第2期(2018)	第3期(2019)	第4期(2020)	第5期(2021)
応募件数					
応募先	福井県、エネ庁、日本財団	復興省、日本財団	福井県	麒麟福祉財団	福井県ワクワクチャレンジ
採用件数	2	0	0	0	0
補助額(円)	※ 254,000	0	0	0	0

	第6期(2022)	第7期(2023)	第8期(2024)
応募件数	1	0	0
応募先	福井県ワクワクチャレンジ		
採用件数	0	0	0
補助額(円)	0	0	0

※ 有志で申し込んだものを含む

#### (7) コマンドシステムの導入、定着

コマンドシステムは、2017年2月に(株)EPR クリエイトが開発し、それ以降、同社と「事務処理委任に関する契約」を締結し、平時、緊急時を問わず NEATR 隊員を指揮統制するツールとして使用している。このシステムは、2019年度の試行を経て2020年度から、それまでのメールとホームページ貼り付け方式から動画指令方式に変更した。これは、即応性と切実性を訴え、隊員の社会貢献意識を呼び起こし実際の緊急時を含め参加率を高めるために行ったものである。

このスマホを用いた動画方式の指令システムは、調べた限りにおいて、国内国外とも例がないものであり、今後、より使いやすいものとなるよう、改善をしていかなければならない。

2022年度から、演習の実績や放射線の定義等に関する動画を作成し、NEATR ホームページで公開しているが、最大動画再生回数が53回ときわめて低調であったため、コンテンツの作成について更なる工夫が必要となっている。

2024年度は、コスト削減の観点からミッション指令をストリーミング方式からオンラインテレビ会議システムに変更した。

また、2024年3月のNEATR定期総会を受け、今後、動画指令を出すメールをスマートホンで扱いにくいEメールから、使いやすいメッセージアプリに変更していく検討を行うこととしている。

#### (8) ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

NEATR 専用ホームページ (neatr@neatr-org.jp) は、NEATR コマンドシステム用ツールであったが、2021年3月にNPO法人ワネッツの定款など法定開示資料や寄付ページを設けるなど全面リニューアルし、「NEATR ホームページ」と改名した。その後、2021年12月に、「放射線量空気の壁打破事業」において、レップツールレブキャンペーンの特設サイトを設けた。その後、ホームページの動画テキストに放射線防護テキスト（放射線、線源、線量、パスウェイ）を張り付けた。

このホームページサイトへのアクセス回数は、ホームページ設置以降キャンペーン開始前が4.5回/日、キャンペーン中が5.3回/日であったが、2022年度は2.9回/日へと低下し、以降もこの状態が続いた。

このホームページには、NEATR コマンドシステムの応答チェックボックスが入っており、NEATR コマンドシステム演習等による、ホームページの活用が望まれる。

その後、アクセス数は変わらず、さらにホームページには寄付サイト廃止対応などの改善必要

事項が多々発生しており、改めて、NEATR ホームページの在り方を含め改善について検討していく必要がある。

ワネッツ会報は、ワネッツ会員とワネッツ組織とをつなぐ場として重要なものと位置づけ NEATR 機関紙と合わせて発行してきたが、2023 年度より会員向けの記事がほとんどないケースでは発行しないこととしたため、2024 年度の会報は2回の発行となった。

【表－1 1 ワネッツ会報の発行】

号	発刊日	主な内容
19	2024.6.21	2023 年度(第7期)決算について 退任役員の皆様に深謝、新役員をご紹介 他
20	2024.10.17	NPO 法人ワネッツの定款を変更しました 中間期の予算執行状況について 他

NEATR 機関紙ウィズハートは、情報共有面からの組織維持をはかることと、隊員相互の交流の場を提供する唯一の場であるため、年4回発行を目指しているものの、2024 年度は、大きな事業が入り3回の発行に留まった。

なお、内容は親しみやすく読まれやすくするため、ワネッツに関連する方々のインタビュー記事を別冊として発刊するなど、内容を大幅に充実させた。

【表－1 2 NEATR 機関紙の発行】

号	発刊日	主な内容
23	2024.6.21	アウトリーチワークショップ編 5月27日警察学校にて 第8回 NEATR 的総会を開催 他 別冊 中川雄さん 「NPO 議員 問は日本国民としての自覚と責任が問われた」 別冊 フランシスコ・フナさん 「人口減少を嘆くより感謝 美瑛民は幸運の中にある」
24	2024.10.17	2024 年度 NEATR コマンドシステム演習について おおい町合同ワークショップ実施結果について 他 別冊 山崎吉秀さん 「ワネッツの使命は社会と地元への貢献である」
25	2025.1.30	3月8日(土) 3 1 1 特別企画セミナーを開催します 2024 年度 NEATR コマンドシステム演習の実施結果について 他 別冊 鈴木早苗さん 「賛成・反対の立場からではなく、前向きに考える力を」

NEATR 機関紙「ウィズハート」の内容充実のため、2024 年6月にウィズハート23号について読者アンケートを実施した。大変熱心にご指摘いただき、24号以降反映したのものがあるものの、回答率が8.6%と、極めて低調であった。

フィードバックは継続的改善に重要なため、今後の再開を目指す。

【表－1 4 機関紙アンケート】

	第1期(2017)	第2期(2018)	第3期(2019)	第4期(2020)	第5期(2021)
実施時期	2017年12月	2018年12月	2020年2月	—	—
アンケート回収率	38.4%	38.0%	12.5%	中止	中止

	第6期(2022)	第7期(2023)	第8期(2024)
実施時期	—	—	2024年6月
アンケート回収率	中止	中止	8.6%

#### (9) ワネッツシニアアドバイザー(WSA)との連携

2018 年4月、公益財団法人原子力安全技術センター（以下、「原安技センター」という）の防災基礎研修のアドバイザーができる知識、技能を持つ人を集め、ワネッツシニアアドバイザー(以下、「WSA」という)を組織(15名)し、さらに、この WSA を改組する形で、原安協との協定に基づき OFC 図上演習へのアドバイザー派遣や上述の防災基礎研修へのアドバイザー派遣などをするため、新 WSA を組織(現在9名)した。

この新 WSA には、中部電力原子力カシニアの方 4 名の参加をいただいた。(後に 1 名脱退)

2023 年度の新 WSA は、原安協のオフサイトセンター図上演習のアドバイザーやコントローラとして派遣した。なお、アドバイザーやコントローラは内閣府の認定を受ける必要があったため、タイミングの合わなかった新 WSA メンバーは見学を実施し、次年度以降の派遣に備えた。

このほか、新 WSA メンバーは NEATR が行う高浜町合同放射線ワークショップをボランティア支援した。この形態は今後アウトリーチワークショップ事業での活用の見込みがある。

初回の派遣以降、派遣のない時期のアドバイザーの知識、技能の保持向上を目指し、メンバーや NPO 法人会員を対象に WSA ニュースレターを発行してきたが、2022 年度にアドバイザー派遣があったためこのニュースレターは 122 号で打ち切った。これに変わるものとして、NEATR ホームページに動画を掲載する「ワネッツオピニオン」を発行した。

【表-15 ワネッツオピニオン】

号	発刊日	テーマ
0	2022.12	(サンプル)容疑者は推定無罪 (動画)
1	2023.1	原子力政策転換、国際基準の導入 (動画)
2	2023.2	停止/失敗問題と謝罪会見 —メディアは不祥事を欲している—
3	2024.2	能登半島地震と志賀 N P P —巨大直下型地震に余裕をもって耐えた!—
4	2024.3	原子力施設の40年ルール —なぜ、免許更新期間が寿命に?—
5	2024.7	ここがおかしい日本人 10選 —未曾有のインバウンドの影で—

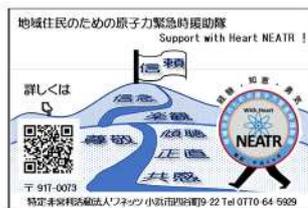
以上

# 強制余白

# 地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR）

## 2024年度

## 活動報告書添付資料



2025年5月24日

特定非営利活動法人 ワネッツ

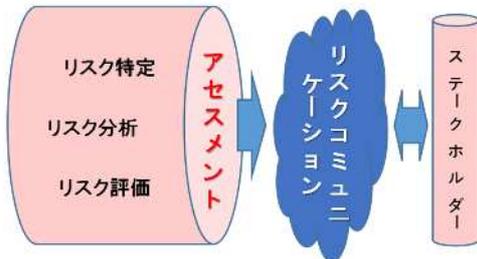
### NPO法人ワネッツとNEATRの関係

1

	地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)	特定非営利活動法人ワネッツ
性格	任意団体 (2016年12月17日発足) 平常時、緊急時とも実際の活動を行う	認定特定非営利活動法人 (2017年4月6日設立、2022年12月認定格取得) NEATRの運営を行う
目的	リスクコミュニケーションにより地域レジリエンスを強化する。	リスクコミュニケーションにより、地域の防災・減災力の向上に寄与する
参加資格	若狭地方原子力職場の経験者で若狭方面または京阪神方面等に居住、会費等なし	制限なし 加入金、年会費が必要
義務	<b>隊員の義務は一切なし</b> 、加入・脱退自由	申込必要、定款に基づき権利、義務あり
現勢	隊員104名	正会員 36名、賛助会員 25名 (内法人9)
会計	NPO法人ワネッツが実施 <b>原則、平時、緊急時ともボランティア実費はNPO法人ワネッツが支給</b>	法人会計規則準拠 収入は、会費、寄付金、事業収入等 支出は、人件費、事業支出、事務費等
会議体	NEATR戦略本部会議（平時、緊急時） (役員会規定およびNEATR規約による)	役員会(役員会規定による) 理事会(ワネッツ定款による)
構成	NEATR指令職：隊長1名(肥田善雄)、副隊長1名、班長4名(NEATRコマンドシステム適用)	理事長1名(肥田善雄)、副理事長2名、理事2名、理事・事務局長1名、監事2名 (会計規定、旅費規定等整備)

## 活動の特徴1 リスクコミュニケーション

2



NEATRで用いるリスクコミュニケーションプロセス



NEATRで用いるリスクコミュニケーション技法

2019年9月、NPO法人ワネッツの定款の目的を改正し「**リスクコミュニケーションを行う組織**」としました。

ねらいは以下のとおりです。

□ **平常時も緊急時も一緒＝ワンボイス**

起きたとしてコミュニケーション  
緊急時に新しいことは言わない  
念のため・・・起きたら説明できない

□ **どこでも同じ用語＝ターミノロジー**

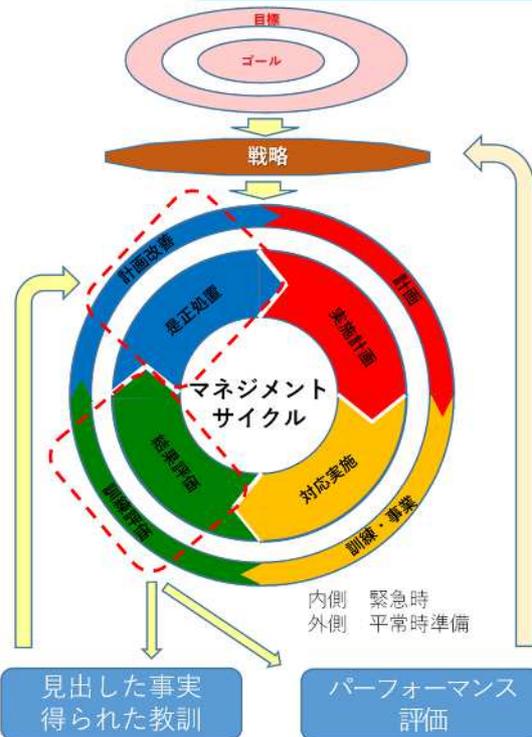
ミリよりマイクロが大きい・・・え！  
グレイよりシーベルトで教えて・・・ええ！  
放射線は貫通するから危険・・・えええ～！

□ **前向きメッセージ発信＝信頼を得るため**

人々は技術的な判断はしない  
信頼している人・組織の声を聴く  
信頼を得るために、コミュニケーション技法活用

## 活動の特徴2 マネジメントシステム

3



□ 平常時の事業および緊急時の対応とも、マネジメントシステムを適用し、**PDCAサイクル**をまわす。（左図参照）

このため、作成した計画には、脆弱性があるものとして、それを実施段階で“**事実**”として見出し、その事実から“**教訓**”を得ることを行います。

□ 平常時の事業は、**緊急時の準備**として位置付けます。（講習会講師派遣などは“顔の見える関係の構築”）

□ 平常時事業であっても、原則として、**NEATRコマンドシステム**を使い要員参集、ミッション実施および報告を行います。

□ 平常時および緊急時とも、目標は高めに置き、その高い目標にどれだけ近づいたかを**パフォーマンス評価**します。

## 活動の特徴3 コマンドシステム

4

### システムの構成

#### □コールシステム

隊員のスマホ等情報端末に出動要請を出すとともに、担当するエリアとそこでのミッションを連絡するシステム。

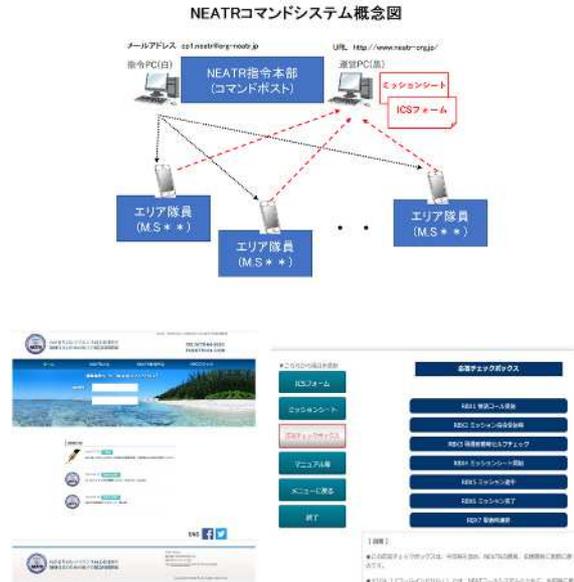
#### □コマンドウェブ

隊員にミッションの中身を示し、隊員が進捗状況を逐次入力し、完了を報告するウェブコンテンツ。

- ・ICSフォームおよびミッションシート  
ICSフォームおよびミッションシートは動画で直接指令する
- ・応答チェックボックス  
ウェブコンテンツに含まれる進捗状況入力用の枠。

#### □ハード構成

パソコンまたはサーバー：2台、インターネット回線：2回線、メール機能およびウェブ閲覧機能のある情報端末：必要数



## 2024年度NEATRの活動実績総括表

5

事業区分	事業名称	実施日	参加(外部)	新聞等報道
① R 運営事業 NEATR	2024年度コマンドシステム演習	2024.10.25(金) 2024.10.26(土)	26名 (260名)	2
	2024年度災害時外国人支援実働演習	2024.11.24(日)	8名 (20名)	0
② 研修事業等	アウトリーチワークショップ事業 (継続)	2024.5.27(月) 2024.9.30(月)	17名 (42名)	0
	2024年度311特別企画事業 (311特別セミナー)	2024.12~2025.3	50名 (100名)	4
③ ツール開発等事業	シェルター・イン・ブレース(SIP)普及開発事業 (継続)	2025.2.1(土) 2025.2.2(日)	4名 (5名)	0
	オールハザード対応技術開発事業 (継続)	2024.10.12(土)	8名 (150名)	0
④ 知識普及事業	2024年度若狭湾エネ研受託研修事業	2024.1.14(火)	8名 (5名)	0
	放射線右脳(空気)の壁打破事業 (継続)	2024.4.1~	8名 (6名)	0
⑤ 関連事業	(実績なし)			

## 2024年度コマンドシステム演習（その1）

6

- 日時 MS5 2024年10月26日(土) 08:30~12:00  
MS6 2024年10月26日(土) 10:00~14:00  
MS8 2024年10月25日(金) 13:30~17:30
- 場所 NS5 おおい町 佐分利公民館(おおい町在留外国人)  
MS61 越前市 南越中学校体育館(小浜市民)  
MS62 鯖江市 東洋中学校体育館(小浜市民)  
MS8 おおい町成和地区他(おおい町民)

### 3. 目的

福井県および立地市町からの要請等に基づき、原子力防災訓練において、防護措置の対象とされた地域住民の皆様等と放射線に関するリスクコミュニケーションを行い、**原子力発電所の放射線事故に関して建設的な意見を述べる地域住民の方々を増やすことを目的として行う。**

### 4. 事実と教訓

- MS8で大島公民館へいく予定であったが、佐分利公民館での翌日準備に手間取ったことがあったため、準備段階でステークホルダーと約束したことが確実に実行できるようにする。
- ハンドスピーカなどのスピーカー音声がスマホ翻訳機等で翻訳されないことについて、さらなる調査を行い、対策を実施する。
- 10月26日のミッション指令がネット環境不調により発出されなかった。**ミッション開始前のNEATR隊長からのミッション目的に関する指令が、NEATR隊員に到着することを確実にする。**

エリア	ミッション名	説明
MS0	NEATR戦略本部	市町本部近傍に設置
MS1	要避難者防護措置支援	車椅子移動補助など
MS2	一時集場合所支援	バスのアテンドなど
MS3	避難車両中継所支援	車両誘導など
MS4	避難退域時検査支援	車両誘導など
MS5	指定避難所支援	受付支援など
MS6	広域避難所支援	受付支援など
MS7	放射線防護対策施設支援	物資配給など
MS8	屋内退避支援	物資配給など

### NEATRのミッションエリア

略号	意味	補足
SMILE (検討中)	常に笑顔で Every time with smile	肩書で勝負できない、笑顔で勝負する
C C O	思いやり、信念そして素親 (compassion, conviction, optimize)	「共感」を超える「思いやり」が必要
K I S S	どんなときでも短く簡潔に (keep it short and simple)	話すときは無論、資料作成のときにも
F & L R	重要なことは最初と最後繰り返し (first and last repeat)	重要なことは3~4つまで、かつ短く
A G L - 4	小学4年生にわかる言葉で (average grade level minus four)	「小学4年生にわかるように」ではない
1 N = 3 P	1つの悲観に3つの楽観を (one negative equal three positive)	対象の方への「思いやり」を忘れないように

### NEATRのリスク基本技能

総支出	1,290,901円	内評価支出	639,800円
-----	------------	-------	----------

## 2024年度コマンドシステム演習（その2）

7

### 【MS5 指定避難所支援 リスクコミュニケーションゲーム】

2024年10月26日(土) 08:30~12:00 佐分利公民館  
NEATR 5名、FFCL 5名、在留外国人12名、その他約7名



受付



オリエンテーション



ブース設営、運営準備



小浜市長ご来訪



翻訳機コミュニケーション



ジェスチャーコミュニケーション



福井県知事ご来訪



小浜市民ご来訪



全員で記念撮影



小浜市民ご来訪



市民とのコミュニケーション

### 【MS61 広域避難所支援 よくわかる放射線ブースの設置、運営】

2024年10月26日(土) 10:00~14:00 越前市南越中体育館  
NEATR8名、FFCL2名、小浜市民約80名、その他約45名

## 2024年度コマンドシステム演習（その3）

8

**【MS62 指定避難所支援 よくわかる放射線ブースの設置、運営】**  
 2024年10月26日(土) 10:00～14:00 鯖江市東洋中体育館  
 NEATR8名、小浜市民約80名、その他約30名

**【MS8 屋内退避支援 お困りごとお聞きします】**  
 2024年10月25日(金) 13:30～17:30 おおい町成和地区  
 NEATR6名、おおい町民7名



## 2024年度災害時外国人支援実働演習

9

FFCLの皆様、昨年9月の活動に引き続き第2弾です。  
**11月24日(日) エルガイヤに行ってみよう**  
 集合時間は10時、昼食付で参加無料です。

集合場所は、エルガイヤの駐車場です。そこからエルガイヤの入口ホールにお集まりいただき、ご案内をかねて、NPO法人ワネットからご挨拶します。



その後、「宇宙遊戯ヤマト」や「銀河鉄道999」の原作者の松本零士氏企画の「コスモユニット-エルガイヤ」で制作員ディレクター(キャラクター)とともに、宇宙発電所の操作などの体験を実施します。



引き続き、関西電力大飯発電所の内部まで見ることが出来るバーチャルシタターの体験、さらに同発電所運転員の訓練施設を見学します。



これらの見学が終わると、徒歩で近所のうみんぴあホテルのレストランへ行き、昼食を食べるの見学は終了です。なお、その後、近くのプールで過ごされることも可能です。

申込方法は、このパンフレットを渡された方に申し込んでください。

なお、今年の10月26日の原子力防災訓練のとき、ご支援いただき、ありがとうございました。



美浜PRセンター内 風景      参加者記念撮影

1. 日時 2024年11月24日(日) 11:50～16:30
2. 場所 関西電力(株) エルガイヤ 福井県おおい町鳴海うみんぴあ
3. 参加 NEATR1名、FFCL16名、他4名
4. 目的  
 2024年度コマンドシステム演習を踏まえ、支援を受ける福井県外国人コミュニティリーダー(FFCL)と顔の見える関係の構築に資する。
4. 事実と教訓
  - (1) 2024年度NEATRコマンドシステム演習に先立ち、協力していただけるFFCLの皆様へ原子力を体験してもらう予定で準備したが双方日程が合わず、演習の事後となった。
  - (2) エルガイヤでは、日本語と翻訳ソフトによる英語での説明をお願いしていたが、事後、日本語、英語のどちらが理解できたを聞き取りした。その結果、ほぼ全員が英語の方が理解できたという回答であった。これまでも同様であったが、英語翻訳すると自動的に主語が入ることに影響を受けていると思われる。

総支出	108,196円	内評価支出	43,600円
-----	----------	-------	---------

## アウトリーチワークショップ(その1)

10

- 日時 2022年11月～(継続実施中)  
今年度 2024年5月27日(月) 福井県警察本部  
2024年9月30日(月) おおい町  
2024年12月4日(水)、5日(木) 原子力規制庁
- 場所 各市町、機関の事務所  
今年度 2024年5月27日 福井県警察本部警察学校教場  
2024年9月30日 おおい町役場正庁ホール  
2024年12月4日、5日 大飯OFC
- 目的  
福井県下で放射線測定器の備えてある機関(約100か所)に出向き、当地での測定器の取り扱いの習熟をはかるとともに、NEATR隊員との顔の見える関係の構築に資する。
- 事実と教訓
  - ワークショップの場に提供する全ての備付け計器について事前点検を行い、使用前の計器の異常判断を行う。
  - アドバイザー時間不足に対応するため、テキスト実施項目に優先順位を示す。
  - モニタポストデータでのアセスメントを入れる。
  - 緊急時アクションレベル(EAL)に言及する
  - タイムキーパー役の考慮
  - モニタポストデータの普及



総支出 1,128,753円 内評価支出 952,400円

## アウトリーチワークショップ(その2)

11

(福井県警察本部放射線測定)

- 日時 2023年5月27日(月) 12:30～16:00
- 場所 福井県警察本部警察学校教場
- 参加者 各警察署9名、NEATR6名  
県警本部2名
- 使用放射線測定器および線源  
個人線量計、 $\alpha$ 表面汚染測定器(備付)  
GM管(レンタル)  
北投石、溶接電極、カリ肥料等(レンタル)
- 内容
  - オリエンテーション
  - 放射線の説明(全体)
  - 線量計の説明
  - 個人線量計の警報
  - 個人線量計警報のアセスメント
  - 天然線源のアセスメント
  - 意見発表 クロージング



## アウトリーチワークショップ（その3）

12



開会あいさつ



全体講義



班別実習



班別実習



班別実習



班別実習

### おおい町合同放射線測定ワークショップ

1. 日時 2024年9月30日(月) 12:30～16:00
2. 場所 福井県おおい町 おおい町役場正庁ホール
3. 参加者 おおい町職員15名(内2名事務局)  
NEATR10名
4. 使用放射線測定器および線源  
個人線量計、電離箱(他にGM管、NaIシンチ持込み)  
北投石、溶接電極、ラジウムボール、湯の華等

### 5. 内容

- 開会あいさつ
- 全体講義 放射線について(10分)
- 班別実習 備付放射線測定の原理(10分)
- 班別実習 備付放射線測定器の取扱(10分)
- 班別実習 天然線源の測定(10分)
- 班別実習 アセスメント(15分)
- 全体実習 さまざまな検出器(5分)
- 全体討議 代表者結果発表(10分)
- 閉会あいさつ

## アウトリーチワークショップ（その4）

13

### 核物質防護研修放射線測定実習 (原子力安全技術センターとの協定に基づく)

1. 日時 2024年12月4日(水) 15:00～17:00  
5日(木) 09:00～17:00  
講義 11:00～12:00  
実習 13:20～14:00(2班)

### 2. 場所 大飯OFC

3. 参加者 県警3名、自衛隊3名、海保4名  
原子力規制庁4名、NUSTEC2名

4. 使用放射線測定器および線源  
NaIシンチ1台(NUSTEC貸与)  
鉱石線源セット(NUSTEC貸与)

### 5. 内容

- (1) 原子力に関する基礎知識  
原子力規制庁作成のテキストから抽出して講義
- (2) 放射線測定実習(2回、全7人)  
NaIの原理、起動方法を説明し、鉱石をリスクアセスメント、モニタする。



線量計の準備



線量アセス



放射線の計測



放射線の計測

## 2024年度311特別企画事業（311特別セミナー）（その1）

14

### これからの原子力防災 一屋内退避を考えよう

日時 2025年3月8日(土)  
13時30分～16時30分  
場所 あいあいプラザ311ホール  
福井県敦賀市東洋町4-1

講演1 屋内退避の有効性(20分)  
福井大学工学研究科教授 安田伸宏氏

講演2 避難・屋内退避の健康被害(20分)  
福島県立医科大学教授 坪倉正治氏

講演3 福井県の避難計画について(20分)  
福井県危機管理課主任 武田由理氏

報告 屋内退避「お困りごとは？」(10分)  
認定NPO法人ワネッツ副理事長 高城和行

グループワーク 屋内退避って何？  
できることは何？(60分)

特別ファシリテーターとして、NPO法人福島ダイアログの安藤理事長をお迎えし、ご参加いただいた皆様で自由討議、そして意見発表を行います。(休憩含む)

パネルディスカッション

屋内退避を考える(40分)  
講演された方およびグループワークからの参加者によりディスカッションを行います。

2011年3月の事故から14年  
原子力の推進策として、  
あの事故の教訓を地元で生かすため

多くの皆様のご参加をお待ちしています

主催 認定特定非営利活動法人 ワネッツ  
地域住民のための原子力緊急時対応隊NEATR  
所在地 福井県小浜市西町19-22  
連絡先 090-5170-9450(24時間)

後援 福井県、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町、関西電力株式会社原子力事業本部、日本原子力発電株式会社敦賀事業本部、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構敦賀事業本部、福井工業大学

原子力発電所から、お住まいの5-30km圏内にLIFZ(屋内退避ゾーン)が設定されています。お住まいのみなさまが行う屋内退避について、講演者による最新の知見や最新の避難計画、避難計画の進捗状況、避難計画の進捗状況について、最新の知見をお伝えします。

屋内退避の資料(内閣府)

原子力防災ヒートマップ(内閣府)

無料です。右のQRコードからお申込みください。(定員になり次第打ち切りますのでお早めに)

ワネッツロゴ NEATRロゴ

総支出 1,678,458円 内評価支出 1,013,800円

1. 日時 セミナー後援依頼 2025年1月14日～2月20日  
311特別セミナー 2025年3月8日(土)  
13:30～16:50
2. 場所 後援依頼 県庁、市役所、役場、事業者本部他  
セミナー 敦賀市あいあいプラザ
3. 参加者 後援依頼 NEATR50名  
セミナー 全体で100名
4. 目的  
地元住民、事業者に屋内退避を普及するセミナーを行う
5. 実施内容  
(1) 福井県、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町および高浜町に所定の様式でセミナー後援依頼を提出したまた、関西電力、日本原電およびJAEAの各本部に後援依頼と参加要請を行った  
(2) 福島県立医科大学の坪倉教授、福井大学の安田教授および福井県武田主任に講演をいただき、次に全体を10グループに分けてグループワーク・発表を行い、最後に講演者とともにパネルディスカッションを行った。

## 2024年度311特別企画事業（311特別セミナー）（その2）

15

セミナー後援依頼およびセミナー参加要請  
2025年1月14日～2月20日

(後援依頼先)

福井県、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町、関西電力株式会社原子力事業本部、日本原子力発電株式会社敦賀事業本部、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構敦賀事業本部、福井工業大学

(参加要請先)

上記の各機関  
福井大学  
太平電業、日本建設工業、関電プラント、TAS、KANSO、INSS、クリハラント  
敦賀市防災士会  
福井県原子力平和利用会議

福井新聞

セミナー後援要請文

福井県、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町、関西電力株式会社原子力事業本部、日本原子力発電株式会社敦賀事業本部、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構敦賀事業本部、福井工業大学

セミナー後援承認文

福井県、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町、関西電力株式会社原子力事業本部、日本原子力発電株式会社敦賀事業本部、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構敦賀事業本部、福井工業大学



美浜町長説明



敦賀市長説明



関電事業本部長代理説明

2024年度 3 1 1 特別企画事業（311特別セミナー）（その3）

16



受付（FFCL）



司会者挨拶



主催者挨拶



フロアー



安田先生ご後援



坪倉先生ご講演



武田主任ご後援



主催者側報告



グループワーク



グループワーク



グループワーク



グループワーク

2024年度 3 1 1 特別企画事業（311特別セミナー）（その4）

17



グループワーク



グループワーク



グループワーク



グループワーク



意見発表



意見発表



意見発表



意見発表



安東理事長ご後援



パネルディスカッション



パネルディスカッション



主催者側閉会挨拶

ワークショップで得られた教訓（右図報告書より）

- (1) NEATR活動へ高校生が参加してもらえるようにするための窓口づくり
- (2) 時間超過したため、余裕のあるスケジュール設定と異常対応の事前準備
- (3) 先生方の講演資料の配布はなく、また会場音響設備も十分でなかったため、予めレジュメの作成および配布、並びに会場でのマイクテスト

結論

次回も、今回と同様の講演者により**311特別セミナー「屋内退避を実施する」**を来年3月で計画する

先立って、福井県下UPZ市町対象で**「屋内退避ワークショップ」**を開催する（右図企画書を参照）

これらについて、受託可能性を含め福井県と調整する

3 1 1 特別企画セミナー

№. 038 F ラフ  
№. 032 F 4953

これからの原子力防災—屋内退避を考える—  
報告書(Final)



2025年3月30日

認定特定非営利活動法人 ワネッツ  
地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)

屋内退避ワークショップ企画書

1. 実施目的  
2025年3月8日に行った311特別セミナー「これからの原子力防災—屋内退避を考える—」の成果を受け、屋内退避の更なる普及につとめ、あわせて地域行政職員の皆様とNEATR隊員の顔の見える関係構築に資する。
2. 実施場所  
敦賀市、美浜町、おおい町および高浜町ならびにこれらの市町にある原子力発電所の概ね20km圏内の市町(福井市、鯖江市、越前市、越前町、南越前町、若狭町、小浜市)の行政庁舎内の適切な広さがある会議室等
3. 実施日知事  
令和7年度福井県原子力防災訓練の2〜3か月前から同訓練の2週間前まで。具体的には市町と調整する。  
平日の開催で、所要時間は2時間程度とする。
4. 参加者  
市町職員 10〜30名 (2〜5グループ)  
NEATR隊員 3〜6名 (各グループ1名+指揮1名)  
状況によっては、高校生、大学生、福井県外人コミュニティリーダーが参加する場合もある。



NEATRコマンドシステム演習の実績

回	月日	主対象	主催	MS0	MS1	MS2	MS3	MS4	MS5	MS6	MS7	MS8	MS9
1	2016.08.27(土), 28(日)	おおい町 高浜町	国、県	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
2	2017.10.13(金)	敦賀市	敦賀市	自	要	要	要	要					
3	2017.11.26(日)	高浜町	高浜町	自	要	要	要	要					
4	2018.08.25(土), 26(日)	おおい町 高浜町	国、県	自	自	自	自	自	自	自	自	自	要
5	2019.08.30(金), 31(土)	美浜町	県	自	自	模	模	自	自	模	模	自	
6	2020.08.27(木)	おおい町	県	自	模	模	模	模	模	模	模	模	
7	2021.10.30(金)	美浜町	県	自	自	模	自	模	自	模			
8	2022.11.05(土), 06(日)	美浜町	国、県	自					要				
9	2023.10.20(金), 21(土)	高浜町	県	自					要	要		自	
10	2024.10.25(金), 26(土)	おおい町	県	自					要	要		自	

注1 MS0〜MS9はNEATRコマンドシステムのミッションエリアを示す (MS1〜MS9は報告に「実績」が記入)  
注2 「自」は市町等に申し入れて独自に行う演習、「要」は協賛または市町等からの要請に基づく演習、「模」は、実戦を伴わない形で独自で行う演習  
注3 第8回〜第10回のMS8「広域避難所支援」は、広域避難所での「よくわかる放射線アース」、第9回、第10回のMS8「指定避難所支援」は、被災市町内の指定避難所での「リスクコミュニケーションゲーム」を行った。

MS8 お困りごとお聞きします

1. 日時 評価と対応 2024年11月〜2025年3月  
フィードバック 2025年2月1日(土)、2月2日(日)
2. 場所 評価と対応 ワネッツ小浜事務所  
フィードバック 和田公民館、成和公民館、佐田公民館
3. 出席 各地区住民5名、NERTR4名
4. 実施目的  
2022年〜2024年の福井県原子力総合防災訓練において屋内退避地区となっている住民に「MS8お困りごとお聞きします」の評価と対応をまとめ、2025年3月8日(土)の「311特別セミナー これからの原子力防災」で披露する。  
その前にご意見等頂いた住民にフィードバックを行う。
4. 実施内容
  - ・ MS8で出された意見等まとめ、日時等の実績とともに報告した
  - ・ NEATRとしての対応をまとめた
  - ・ そのまとめを3月8日のセミナーで公表すること表明した。

総支出 162,357円 内評価支出 133,400円

## シェルター・イン・プレース(SIP)普及開発事業(その2)

20

**対応** ・国内では「放射線リスク」の概念が定着していないため、まず、リスクアセスメントに関する技術開発を行う

・リスクアセスメントの技術開発状況を積極的に広報していく。

**見出した事実2：市町長からの屋内退避指示で、自主的避難を開始する可能性があることがわかった**

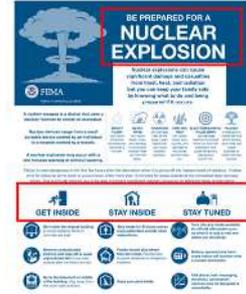
**対応** ・放射線レベルで判断したことや屋内退避での生活をポジティブ情報としてSNSにアップしていく。  
・そのネットワークを通じて、孤独感を開放していく。

**見出した事実3：屋内退避の目的がわからないという意見が多くあった**

**対応** ・早期に復旧させて生活を戻すための、コミュニティ復旧計画のモデルを作成し、公開する  
・この計画には、病院やコンビニも対象とする。

**見出した事実4 行政からの屋内退避に関する情報に期待する声が多かった**

**対応** ・ワンボイスの有効性を、市町にうたえていく  
・モニタポストデータのレベル判断ができるよう、アウトリーチワークショップを充実させる。



## オールハザード対応技術開発事業

21

1. 日時 2024年10月12日(土) 8:00~11:30
2. 主催 小浜市防災士の会とNEATRの共同開催
3. 場所 福井県立大学小浜キャンパス 体育館
4. 参加者 福井県知事、小浜市長含め150名  
主催側 小浜防災士会8名、NEATR2名
5. 目的 災害対応機会の増により原子力災害の対応の技能を向上させる
6. 実施内容 日本シェイクアウト推進会議の認定(第240078号)を得て、シェイクアウト、安否確認および救助訓練を行う。NEATRは、この訓練の主に地震、津波の災害想定を行う。



福井県・小浜市防災士会認定を受けて行う  
小浜市防災士の会「シェイクアウト訓練」 概観・詳細の概観

1. 場所の概要  
 日時 10月12日(土) 10:00  
 開催地 福井県立大学 本館 4F 3F 東館 13F 3F (本館から約300m)  
 シェイクアウトコース A(約1km)  
 参加費 無料  
 主催者 小浜市防災士の会 (主催者) 8名  
 協賛者 21名 (協賛者) 15名  
 実行委員 24名 (実行委員) 15名  
 認定番号 第240078号 (認定番号) 10/24

2. 訓練の概要  
 実施時間 10月12日(土) 10:00~11:30(約1時間30分)  
 参加人数 参加者 150名 (参加者) 150名  
 主催者 小浜市防災士の会 (主催者) 8名  
 協賛者 21名 (協賛者) 15名  
 実行委員 24名 (実行委員) 15名  
 認定番号 第240078号 (認定番号) 10/24

3. 訓練の内容  
 訓練内容 避難(1時間)  
 訓練科目 避難(1時間)  
 訓練科目 避難(1時間)  
 訓練科目 避難(1時間)

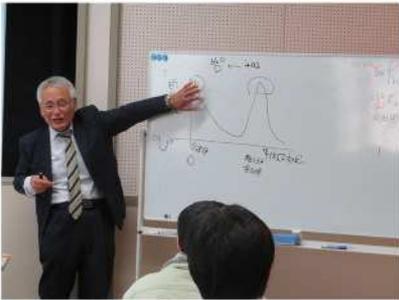
4. 訓練の費用  
 総費用 100万円 (総費用) 100万円  
 主催者負担 50万円 (主催者負担) 50万円  
 協賛者負担 50万円 (協賛者負担) 50万円



総支出	90,570円	内評価支出	70,000円
-----	---------	-------	---------

## 2024年度若狭湾エネ研受託研修事業

22



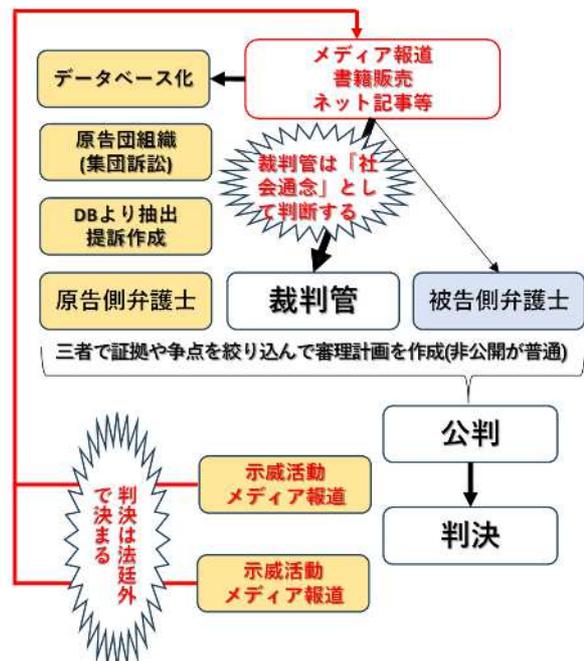
1. 日時 2025年1月14日(火) 09:00～17:00
2. 場所 若狭湾エネルギー研修センター 研修室
3. 目的  
若狭湾エネ研との「原子力発電所従事者の放射線防護研修」契約書に基づき、リスクアセスメントに関する研修を行う。
4. 参加 受講者5名
5. 実施内容  
前年度評価に基づき、天然線源の測定実習を追加し、リスクアセスメント計算を容易にした。
6. 評価(事実と教訓)  
原子力に関する経験年数のある受講者であったが、実際の知識は大きな差があり、全体としての評価は改善したものの、その格差が非常に大きいものとなった。  
初期のころの本研修では、海外文献の紹介を中心に行い評価点も満足いくものであったが、わかりやすくすることにより、かなりの業務経験がある受講者でも「知っていること」かえて講義の評価を下げってしまった。  
次回から、原点に戻り国際基準の講義とする

総支出 50,838円 内評価支出 42,200円

## 放射線右脳(空気)の壁打破事業 (その1)

23

1. 日時 2020年6月～(継続実施中)  
今年度 2025年2月7日 弁護士電話相談
2. 場所 各所  
今年度はワネッツ小浜事務所
3. 目的  
つくられた社会通念でしか動かない安全(放射線影響)の問題の根本を探る
4. 実施内容  
2月7日に「計量法に関する相談」として、無料の弁護士相談をもちかけた。
5. 評価(事実と教訓)
  - ・ 法曹界では「原子力の安全については、放射線の量やその単位といった定量的な問題はないはず」というものであった。
  - ・ そのことを書いた書籍しか知らいとのことであった。
  - ・ 社会通念を捏造しているようなことはないとのことであった。(ちゃんとした本に書いてある)



総支出 38,250円 内評価支出 30,000円